

○計画期間:令和6年4月～令和11年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点(令和7年3月31日時点)の中心市街地の概況

「高山市中心市街地活性化基本計画」は、令和6年4月に内閣総理大臣の認定を受けた。人口減少や少子高齢化に加え、郊外への人口流出、公共施設の老朽化、空き家・空き店舗の増加などによる地域コミュニティの維持が課題となる中、中心市街地におけるまちの魅力・価値の向上を図り、市民はもとより世界各国・全国から多くの人々が集い、居住人口及び交流人口が増加するとともに、若者等が生き活きと働き挑戦できるまちを目指すため、目指す中心市街地の都市像を「誰もが暮らしたい、訪れたい、チャレンジしたいまち」とした。

基本方針は「誇りに思える『暮らしたいまち』づくり」「魅力あふれる『訪れたい、巡りたいまち』づくり」「活力ある『働きたい、チャレンジしたいまち』づくり」の3つとし、居住人口の維持、来街者数の増加、営業店舗数の増加を目標とし、各種事業に取り組んでいる。

令和6年度末には、高山駅前と古いまちなみを結ぶ市道上一之町花里線の無電柱化事業及び舗装のリニューアルが完了し、まちなかへ人を誘引する東西の歩行者軸の安全な道路環境と良好な景観が創出された。

また、古い町並みや中橋周辺の歩行者の安全の確保等の課題への対応として、令和6年6月15日から7月15日までの間、中心市街地外縁部の市営神明駐車場のバス駐車区画を普通車区画に変更し、中橋や上一之町への観光バスの流入を抑制する実証実験を実施した。大型観光バスの流入抑制については、実証実験とその評価を踏まえ、令和7年度以降の対応を検討することとし、引き続き、中心市街地の来街者の増加と安全面での確保を図る取組を進めている。

また、令和4年4月にオープンした飛騨高山にぎわい交流館「大政」は、商店街の夏まつりやマルシェ、企業とのコラボレーションイベントを行うなど、着実に中心市街地のにぎわい創出の一翼を担っている。

なお、計画策定より1年であり、「高山駅西複合・多機能施設（仮称）整備事業」は事業着手に向けた準備段階となっている。他の事業も事業効果の発現まで至っていないものがあるが、引き続き、計画に位置付けた事業を着実に推進し、各目標の達成に向け、官民が連携して各種事業に取り組む。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度3月31日)

(中心市街地地域)	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
人口	8,723	8,558				
人口増減数		▲165				
自然増減数		▲142				
社会増減数		▲23				
転入者数		251				

(2) 中心商店街 店舗数の推移

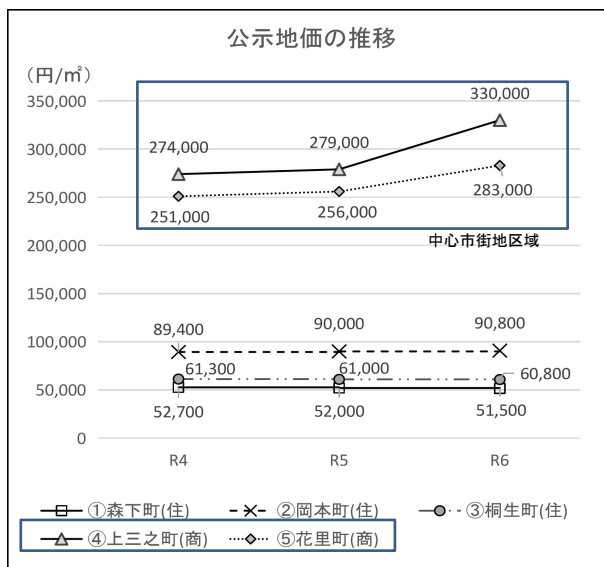
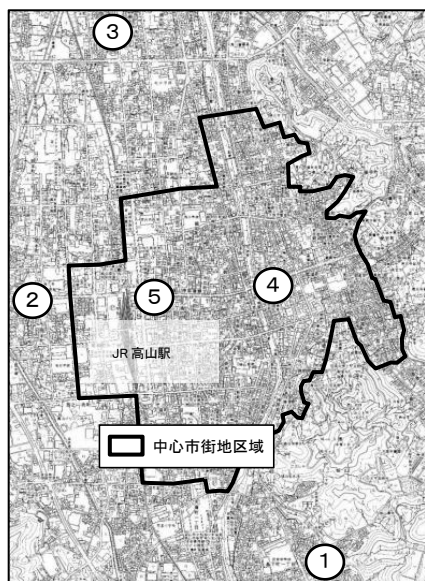
(基準日：毎年度11月)

(中心市街地地域)	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
営業店舗数	349	357				
空き店舗数	69	53				
空き店舗率	16.5%	12.9%				

(3) 公示地価の推移

(基準日：毎年度1月1日、単位：円/㎡)

	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
①森下町(住)	52,000	51,500				
②岡本町(住)	90,000	90,800				
③桐生町(住)	61,000	60,800				
④上三之町(商)	279,000	330,000				
⑤花里町(商)	256,000	283,000				



2. 令和6年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地の全体的な印象としては、「活性化している」という意見が多くみられたが、中心市街地の中でも、活性化している地域・業種と、そうではない地域・業種があること、観光客や観光関連により商店や人流も増えているが、地域住民の目線から見たときには活性化と言えるのだろうか、といった、市民と観光客との間にギャップが発生していることに関する指摘があった。

課題としては、後継者等の事業承継、店舗改修や家賃等の負担等があり、若い世代が伝統行事や伝統産業に意欲的に取組むための経済的環境を整える支援の必要性を求める意見や、観光客の増加に関連した交通ルールやマナー、ゴミ問題と賑わいと共存、景観に合わないと思われる屋外広告物（看板）や店舗等のデザインの存在もあげられた。

中心市街地には、スポット整備事業等によるベンチが設置されている場所があるが、外国人観光客が休んでいたり、飲食をしていたりするので、もう少し多くても良い、水場等も活用してはどうか、という意見もあった。

観光関連として、元々は住居として利用されていた建築物が、空き家となり、その後、宿泊施設になる例があり、これは、空き家として放置されたままになるよりは良いが、地域活動への協力や地域のルールを守るといった、近隣住民との軋轢ができないような仕組みづくりが必要、とされた。

他にも、中心市街地の中にある歴史的建築物を、若者等活動事務所「村半」や飛騨高山にぎわい交流館「大政」のように、市民や観光客が利用・活用できる施設としたことは良かったとの評価や、今後は、市民に直接影響がある高山駅西開発が重要なこと、高山としてのブランドイメージの維持・向上が必要なこと、車両流入抑制事業の実証実験のこと等に対する意見があった。

全体を通して、「中心市街地を含む高山市民や、中心市街地内に暮らす住民にとって、喜ばれ愛される場所となるような、活性化や計画を推進していくべきで、そのために自身も努めていきたい」、「中心市街地の活性化の一助となるよう、取組む」、「我々も、郷愁を感じた頃の町並みを実現するようにつとめる様な事ができないか」といった今後への想いも寄せられた。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
居住人口の維持	中心市街地への転入・転居者数	353 人 (R4)	284 人 (R10)	476 人 (R6)	A	—	A
来街者数の増加	歩行者通行量	10,192 人 (R4)	11,958 人 (R10)	14,358 人 (R6)	A	—	A
営業店舗数の増加	中心商店街営業店舗数	350 店舗 (R4)	353 店舗 (R10)	357 店舗 (R6)	A	—	A

最新値：R6 年度末

< 基準値からの改善状況（※1） >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類（※2） >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況（※1） >」、< 目標達成に関する見通しの分類（※2） >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

目標「居住人口の維持」、目標指標「中心市街地への転入・転居者数」は令和5年度、令和6年度と、基準値を上回り、目標値の1.7倍となった。市外からの異動だけでなく、市内での異動も増えた結果、転入・転居者数の増加につながった。なお、自然増減数でみると、高齢化の影響もあって死亡者数が出生者数を上回っている。ここに転出者も加味すると、市全体として人口は減少傾向にある。

目標「来街者数の増加」、目標値「歩行者通行量」については、堅調な観光客入込数に支えられたこともあり、全体として目標値の1.2倍の歩行者通行量となった。特に、高山駅前や行神橋の通行量が増加したことが、全体の増加に寄与する結果となっており、観光客の影響が大きいと考えられる。

目標「営業店舗数の増加」、目標値「中心商店街営業店舗数」は、新規出店が閉店数を上回ったため、増加となり、目標値を上回った。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

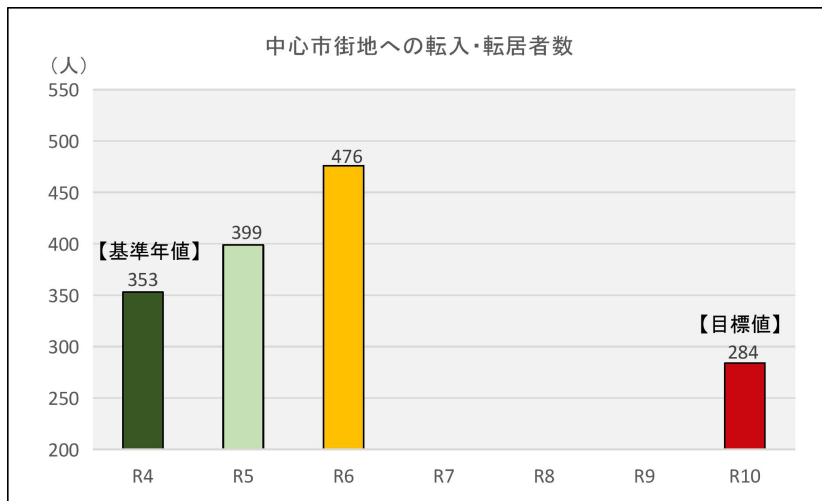
フォローアップ初年度につき該当なし。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地への転入・転居者数」

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 74～P. 76 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R4	353 (基準年値)
R5	399
R6	476
R7	
R8	
R9	
R10	284 (目標値)

※調査方法：高山市住民基本台帳

※調査月：R7.4

※調査主体：高山市

※調査対象：住民異動情報

〈分析内容〉

人口の動向について、本市は全国的な傾向よりも早いペースで少子高齢化が進んでおり、自然増減数でみると全体としては減少している。一方、社会増減数においては中心市街地への転入・転居者が増加となり、令和5年度、令和6年度と連続で目標値を上回っている。今後、市全体の人口減少の中で数値がどのように変化するかはもうしばらく傾向をみる必要があるため、今後の推移を注視する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 若者地元就職支援補助金（高山市）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	若者の市内就職を促進するとともに、生活を支援するため、市内事業所で就労する若者に対して、借家等を借りた際の初期費用の一部を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：21人 最新値：5人（令和6年度） 目標値の約1/4を達成しており、堅調に推移している。
事業の今後について	令和7年度も引き続き市内に就職した35歳未満の若者に対する支援を継続する。

②. 空き店舗等活用支援事業（㈱まちづくり飛騨高山）

事業実施期間	令和 6 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の空き家・空き店舗を活用する所有者や居住者、事業者等に対し改修費・家賃等の費用の一部を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (令和 6 年 4 月～令和 11 年 3 月)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：4 人 最新値：0 人（令和 6 年度） 最新値はゼロであるが、令和 6 年度は 2 件の計画認定・工事着手がされており、工事完了・補助金申請が次年度となっている。令和 7 年度以降の工事完了・補助金申請が見込まれる。
事業の今後について	引き続き制度の推進を図る。

③. 結婚新生活支援補助金（高山市）

事業実施期間	平成 31 年度～【実施中】
事業概要	市民が安心して結婚及び子育てできる環境を整備するため、経済的な支援を必要とする新婚世帯に対し住居費、リフォーム費用、引っ越し費用を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	地域少子化対策重点推進交付金（結婚新生活支援事業） (令和 6 年度～令和 10 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：6 人 最新値：8 人（令和 6 年度）※世帯人数 2 人で算出 市民課窓口での周知等により制度の利用促進を図ったこと等により、目標値を上回る成果となった。
事業の今後について	引き続き制度の推進を図る。

④. 「飛騨高山暮らし案内人」制度の運営（高山市）

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	移住検討者が、安心して移住を決断し、移住後も地域に溶け込みながら楽しく安定した生活ができるよう、移住コーディネータ「飛騨高山暮らし案内人」制度を運営し、移住経験者や地域の方からの相談支援を受けられる体制を構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：なし 最新値：なし
事業の今後について	引き続き制度の推進を図る。

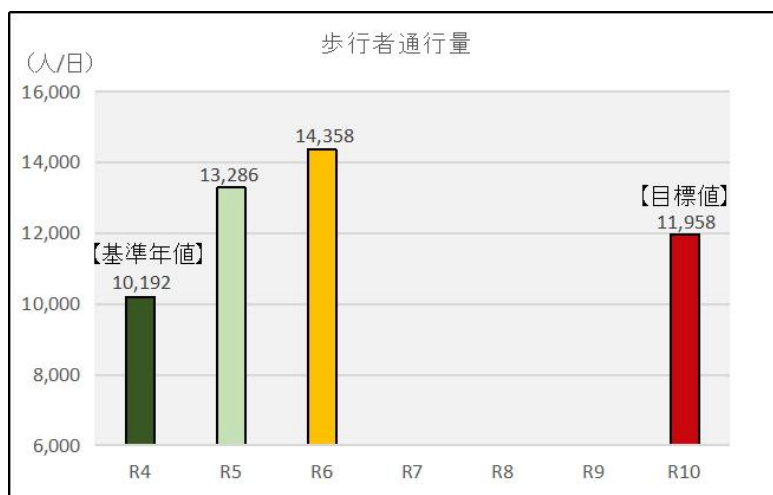
●目標達成の見通し及び今後の対策

若年層に対しての地元就職支援や結婚新生活支援といった、生活の変化のタイミングへの経済的支援を行うことで行動を後押しするとともに、職住一体のライフスタイルを促進する空き店舗活用支援事業でハード面への支援を行うことで、中心市街地における居住人口の維持を図っている。

令和6年度の実績としては、「若者地元就職支援補助金」が目標値の約1/4を達成、「空き店舗等活用支援事業」は次年度以降に実績が発現する見込み、「結婚新生活支援補助金」は目標値を上回る、という結果になった。目標設定における計算式による各事業の効果（事業による計算上の効果）と実績値を比較すると、目標値達成に大幅な乖離が生じていないため、目標設定等の見直しは行わず、引き続き、積極的な広報や効果的な周知方法により、各事業の利用促進を図る。

（２）「歩行者通行量」

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 77～P. 79 参照



年	(人/日)
R4	10,192 (基準年値)
R5	13,286
R6	14,358
R7	
R8	
R9	
R10	11,958 (目標値)

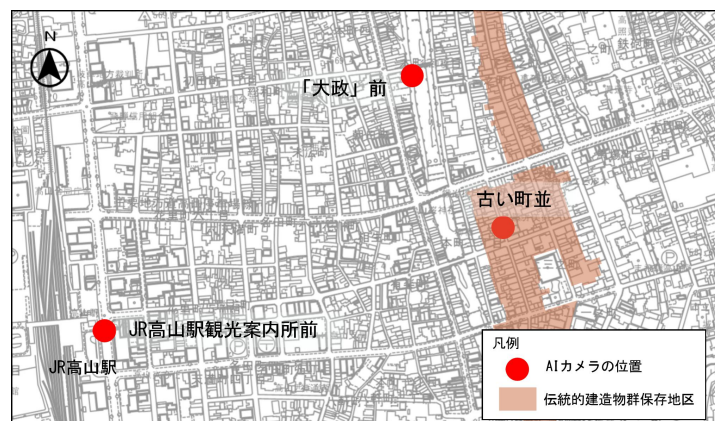
●調査結果と分析

※調査方法：AI 顔認証システムによる人流量計測（JR 高山駅観光案内所前、飛騨高山にぎわい交流館「大政」前、古い町並みの3箇所）による

※調査月：毎日

※調査主体：高山市

※調査対象：歩行者通行量



歩行者通行量の計測地点

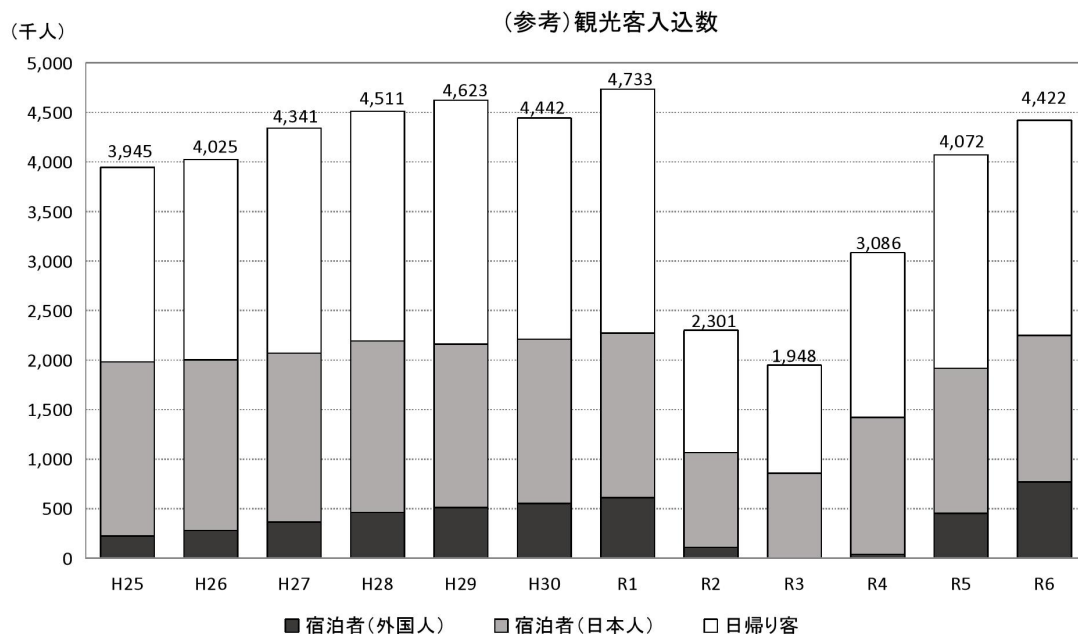
(単位：人/日)

	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
駅前	2,758	3,068				
古い町並み	9,093	9,470				
大政	1,435	1,820				
合計	13,286	14,358				

〈分析内容〉

AI顔認証システムによる人流量計測からは、目標値の1.2倍の歩行者通行量の結果が得られた。この背景には、外国人観光客を含む観光客数の増加がある（参考：観光客入込数グラフ）。観光客入込数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて落ち込んだ令和2年、令和3年以降、連続して増加しており、令和6年には4,422,000人（対前年比108.6%）となった。特に、令和6年の外国人宿泊者数は、過去最高数であった平成31年（令和元年）を25.7%上回る769,743人となった。

通行量を場所別にみると、観光の中心地である2つの伝統的建造物群保存地区を擁する古い町並みの通行量が圧倒的に大きい。増加率では、駅前や、令和4年4月にオープンした飛騨高山にぎわい交流館「大政」前が大きくなっている。「大政」の利用者数は、令和5年度が94,548人、令和6年度が99,830人と、多くの方に来訪いただいており、このことから、「大政」と、宮川にかかる行神橋を介して、古い町並や宮川朝市側と本町通り商店街側との間の人の流れが生まれて、人の動きがより広範囲にわたり、周遊性が増しており、訪れて、まちを巡る動きが表れていると言える。



●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 飛騨高山にぎわい交流館「大政」運営事業（高山市）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	飛騨高山にぎわい交流館「大政」の管理運営を行い、まち歩きの楽しさを高めるための利便性や回遊性の向上などを促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：24人／日　最新値：33人／日（令和6度） 商店街振興組合等の主催のものも含めると、ほぼ毎月何らかのイベントやイベント関連の情報発信等を行っており、にぎわいの創出に寄与している。
事業の今後について	利用者数は堅調に増加しているため、引き続き、施設の利用を推進していく。

②. 市営駐車場市民割引事業（実証実験）（高山市）

事業実施期間	令和6年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の市営駐車場において、市民割引の実証実験を行う。なお、実証実験の結果を検証したうえで本格運用につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和6年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：150人／日　最新値：積算数値なし 令和6年度は、「高山市駐車場整備計画」を策定した。駐車場整備計画において、今後、市営駐車場の料金設定の見直しの検討を行うこととしており、全体見直しとあわせて市民割引の具体的な手法についても検討することとしている。
事業の今後について	市営駐車場利用者を市民と市民以外に分けて料金を設定する仕組みづくりや、市民を判別できるシステムの導入等について検討し、実施に向けて取り組む。

③. 車両流入抑制事業（自家用車割引）（高山市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	市街地外縁部駐車場に駐車し観光特化型バス（匠バス）を利用した場合の駐車料金の割引を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：24人　最新値：13.9人（令和6年度） 市街地外縁部駐車場に駐車し観光特化型バス（匠バス）を利用した場合の駐車料金の割引を実施するとともに、駐車場整備計画に市営駐車場の駐車料金を市民と観光客で分ける方向性を位置付けた。
事業の今後について	市営駐車場において、市民が利用しやすい環境を整えるため、市営駐車場の料金や位置を含め、あり方を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

飛騨高山にぎわい交流館「大政」の利用者数の実績値が目標値を上回る結果となった。「大政」は、行神橋と共に、宮川朝市通りと本町商店街側をつなぐ空間として、市民や観光客が日常から非日常まで過ごし、交流する拠点として活用されている。地域の歴史や景観に配慮した建物改修等により、まちの魅力や価値を高め、中心市街地の回遊性の向上、賑わいの創出に寄与している。一方、市営駐車場市民割引事業（実証実験）については、令和6年度は計画の策定のみとなったため、積算数値はなかった。

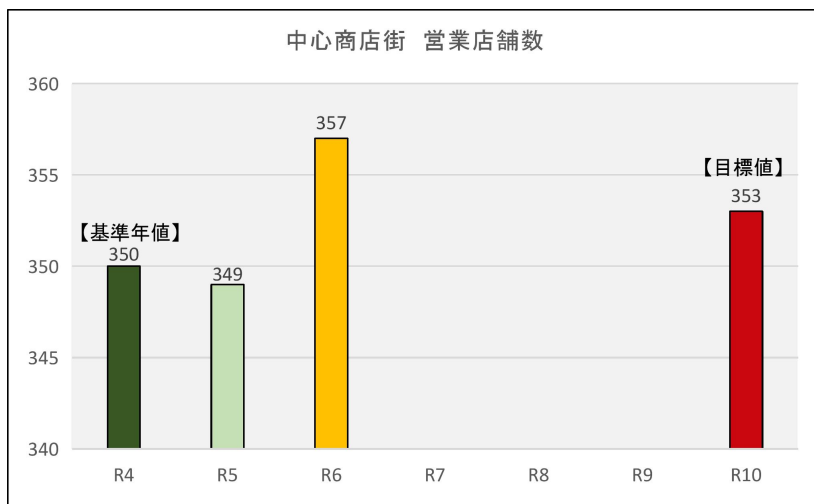
歩行者通行量については、観光客数だけではなく、市民も含めた利用者等の増加と定着を確実なものとするため、引き続き各種取組みを進める。

今後も、積極的な情報発信や効果的な周知により各事業の利用促進を図り、中心市街地を訪れ、巡る層の定着を図り、より一層のにぎわいの創出を図る。

（３）「中心商店街営業店舗数」

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 80～P. 81 参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
R4	350 (基準年値)
R5	349
R6	357
R7	
R8	
R9	
R10	353 (目標値)

※調査方法：現地調査等

※調査月：毎年10月～11月

※調査主体：㈱まちづくり飛騨高山

※調査対象：中心市街地活性化区域

(単位：店舗)

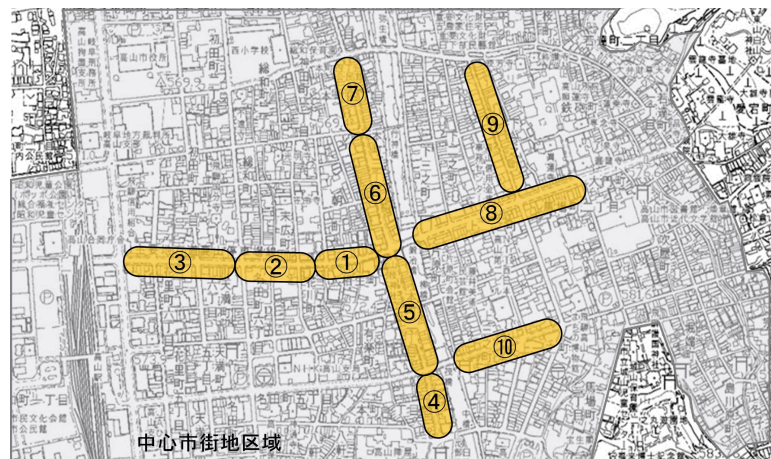
	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
①国分寺通第一	21	20				
②国分寺通第二	19	21				
③国分寺通第三	32	36				
④本町一丁目	25	25				
⑤本町会	56	57				

⑥本町三丁目	45	47				
⑦本町四丁目	30	31				
⑧安川	67	70				
⑨下一之町	30	26				
⑩さんまち通り	24	24				
合計	349	357				

〈分析内容〉

外国人を含む観光客の増加に伴い中心市街地に進出する店舗数が増加傾向にあり、空き店舗の解消が進んでいる。令和6年度の「357店舗」の内訳は、小売業が約5割、飲食業が約3割、サービス業他が約2割となっている。令和5年度と比較すると、業種別の割合は大きくは変わっていないが、飲食業・サービス業他の店舗数で増加となっている。

エリアとしては、高山駅や古い町並、「大政」に近い商店街で店舗数が増加したことにより、現時点で数値目標については達成した。一方で、経営者の高齢化等により閉店となるケースもある。



商店街の位置

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗等活用支援事業（㈱まちづくり飛騨高山）

事業実施期間	令和6年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の空き家・空き店舗を活用する所有者や居住者、事業者等に対し改修費・家賃等の費用の一部を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (令和6年4月～令和11年3月)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：中心商店街営業店舗数 10店舗増加 最新値：14店舗増加
事業の今後について	外国人観光客の増加に伴い、インバウンド需要に対応した飲食業、サービス業等の出店が増加している。引き続き、空き店舗の活用が進むようマッチング等の支援をしていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗については、外国人観光客の増加に伴い、改修等を行い、インバウンド需要に対応した飲食業、サービス業等の出店が増加したため、目標値を達成した。今後も商店街の魅力・価値の向上を図るため商店街振興組合等のまちづくり構想や、「高山市美しい景観と潤いのあるまちづくり条例」に基づくまちづくり協定等の策定を支援するとともに、改修費・家賃等の費用の一部を助成する取組みを進め、中心市街地の営業店舗数の増加を図る。